

令和7年度 学校関係者評価委員会 報告書

大阪市立デザイン教育研究所

1 総括についての評価

アンケート結果を見ると、設備の満足度や校内美化に関する項目においてやや評価の低い部分も見受けられるが、トイレや手洗い場の利用方法などについて学校が継続的に指導を行っている点は評価できる。今後も引き続き、環境整備と意識づけの両面から取り組みを進めていくことを期待したい。

また、入学生の実態に合わせてカリキュラムを柔軟に見直し、迅速に対応している点は本校の大きな特色であり高く評価できる。従来、デザインという静止した表現のイメージが強かったが、本研究所では動画制作など動的な表現にも積極的に取り組んでおり、時代の変化に対応した教育が行われている点は特に評価できる。

2 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○「特別講義」および「キャリアデザイン」を教育課程内で体系的に位置づけ、学生が多角的な視点から自身のキャリア形成について考える力が向上しつづくと考えられる。今後、この取り組みをさらに発展させ、早期の内定獲得につながる支援体制を強化していく。

○今年度は阿倍野税務署と連携し、納税に関するデジタルサイネージを作る「租税PR映像制作プロジェクト」に取り組む。ビデオ製作を主としたデザイン活動を通じて、租税制度や納税者意識について理解を深めながら納税についても学ぶ貴重な機会とする。

「キャリアデザイン」の授業を教育課程の中で体系的に位置づけたことにより、2年生では多角的な視点から自身のキャリア形成について考える力の向上が見られ、1年生においても早期から就職活動を意識したキャリア形成指導が行われている。その結果、きめ細かな指導と支援が行われていることが学校アンケートからも確認できる。

また、阿倍野税務署と連携したプロジェクトに取り組むことで、学生が社会課題をデザインで表現する経験を積むことができ、納税に関する不安を軽減する表現方法への理解が深まったこともアンケート結果からうかがえた。社会と連携した実践的な学びとして評価できる取り組みである。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○グラフィック、プロダクト、UI/UX、空間デザインなど、1年次にさまざまな分野に触れることで学生の適性や興味を広げることがめざす。これまで2年次の夏期に行っていたArchiCAD実習は1年次に行い入学生の関心に対応させる。

○実践的な授業としてこれまでクレイモデルの授業を設置してきたが、社会のニーズに応え、デジタルモデルの授業を新たに開講し、Adobeソフトや3Dモデリング、AIデザインツールなど、業界で求められる最新技術を学ぶ機会を設ける。

今年度より「ArchiCAD実習」を1年次前期に移行し、さらに1年次後期には「デジタルモデル制作」を新規開講するなど、社会の動向や入学生の学習背景に対応したカリキュラムの整備が進められている。メタバースなどの新しい分野に関心を持つ学生の学びにも対応できる教育内容となっており、時代の変化を踏まえた取り組みとして評価できる。

授業後アンケート「この授業はあなたの学習や将来の目標に役立ちましたか」という設問からも、教育的効果が確認されている。

また、5年目を迎えた「こども隙間転落防止プロジェクト」は、継続性と発展性を備えた社会連携活動として高く評価されている。学校評価アンケートの項目「プロジェクト等の活動を通して、特色ある学校づくりが行われている」においても引き続き高い評価を維持しており、本研究所の特色ある教育活動として定着していることがうかがえる。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけでなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるような広報活動に取り組む。

○学校での学生生活を快適に過ごすことができるように、不具合の早期発見と迅速な修繕に努める。また校内のLED化を進め、明るく快適な学習環境を実現させる。

本年度は4月から9月にかけて大阪府内を中心に、兵庫県、和歌山県、奈良県の高等学校および美術系塾など計75校を訪問し、積極的な広報活動を展開した。さらに出前授業を4校で実施し、合同進路説明会にも参加するなど、多角的な広報活動が行われている。こうした取り組みにより、志願者数が着実に増加している点は評価できる。

また、使用頻度の高いギャラリーのLED化が完了し、学習環境の改善が進められている。その他の教室や実習室のLED化についても、次年度以降の計画として進められており、空調機器の更新についても予算状況を踏まえながら継続的に整備が進められている。

3 今後の学校運営についての意見

学生の成長を促すためには、締め切りを守る姿勢を育てるなど、時には厳しさを伴う指導も必要であると考えられる。社会に出た際に求められる責任感や時間管理能力を育成する観点からも、今後も適切な指導を期待したい。

また、大阪・関西万博への作品出展や関連する活動など、社会的に注目度の高い取り組みに関わった経験があれば、パンフレット等で積極的に発信することも効果的であると考えられる。今後も、社会とつながる実践的な経験を教育活動の中に取り入れていくことを期待したい。

令和6年度 学校関係者評価委員会 報告書

大阪市立デザイン教育研究所

1 総括についての評価

デ研では自分の興味・関心に即した学習ができていると子どもから聞いている。今回、デ研展の展示を見させていただいて、子どもの満足度がうかがえるので、学校の評価はもう少し高くてもよいのではないかと思う。実学に重きを置き企業と連携した多数のプロジェクトに取り組んでいる点が評価できる。2年間という短い期間で行う進路指導は難しいと思うが、キャリアに関する科目が導入された点は評価できる。

2 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○修業年限2年という短いスパンでのキャリア教育の充実に向け、入学当初から就職活動を見据えた取り組みや社会人としての基礎知識を身に付けさせることができるように、今年からキャリアデザインの授業を新設した。一人ひとりが自分のキャリアをデザインしていけるように取り組んでいく。

○今年度は淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、水防事業の広報等に関するポスター等を制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて防災についても学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することで防災・減災に対する意識を育成する。

進路支援部を創設し、後援会の援助で就職エージェントとの連携も図っている。科目「キャリアデザイン」を新設し、学生の就職意識の醸成を早期から取り組むようにした結果、きめ細かな指導、支援が推進されていることが学校アンケートからわかった。

水防事務組合連合会と連携したプロジェクトに取り組んだ結果、平素の防災・減災意識を育むことにつながったこともアンケートからうかがえた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○教室における講義中心の知識偏重型授業だけでなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけでなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。

○学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。また、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネススキルを高める。

企業や団体からポスターやリーフレットだけでなく、リアルなプロジェクトの依頼に応えることで、実践力が身につけ、好評価を得ていることで学生が自信を持っている様子がうかがえる。

年度の初めから課題研究の充実に図り指導したことで、興味深い発表がデ研展や発表会でこなしていることがわかった。前年度に比べカリキュラム全体が精査され、土曜日の授業も削減されて学生に余裕ができてきていることを家庭でも実感している。

社会の情勢にも合わせ、地元企業と連携しながら社会のニーズに対応したデジタル系の科目を新設することを期待している。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけでなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるような広報活動に取り組む。

○学校での学生生活を快適に過ごすことができるように、昨年度学生や保護者からの要望があり、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会からも改善を指摘された、トイレの洋式化に取り組む。

前年度の課題から入学者増加に向けての取り組みを強化した結果、志願者数は増加したものの定員に達しなかったため、次年度以降さらなる対策が必要だと考える。たとえばメディアへの露出を強化すれば良いと思う。あるいは現役学生と一緒に出身校を訪問し、近況報告をすると良いと思う。

施設面としては各教室に大型モニターの設置、3Dプリンターや陶芸窯の導入、トイレの洋式化を進めるなど改善できたことがわかった。

3 今後の学校運営についての意見

デザイン教育研究所をさらに知ってもらうために、オンラインも活用しながら現役学生と一緒に出身校に近況報告をしたり、高校との連携授業を今後も継続していくと良いと思う。また、万博をうまく活用すると良いと思う。

来年度は是非とも志願者が定員を超えることを願っている。